

北鎌尾根 風雪のビバーク

日時:2014年5月2日(金)～5月7日(水)

ルート:槍ヶ岳北鎌尾根

高瀬ダム～湯俣～千天出合～P2～独標～槍が岳
～横尾～上高地

メンバー:川田 一夫(このはな山の会) (リーダー)

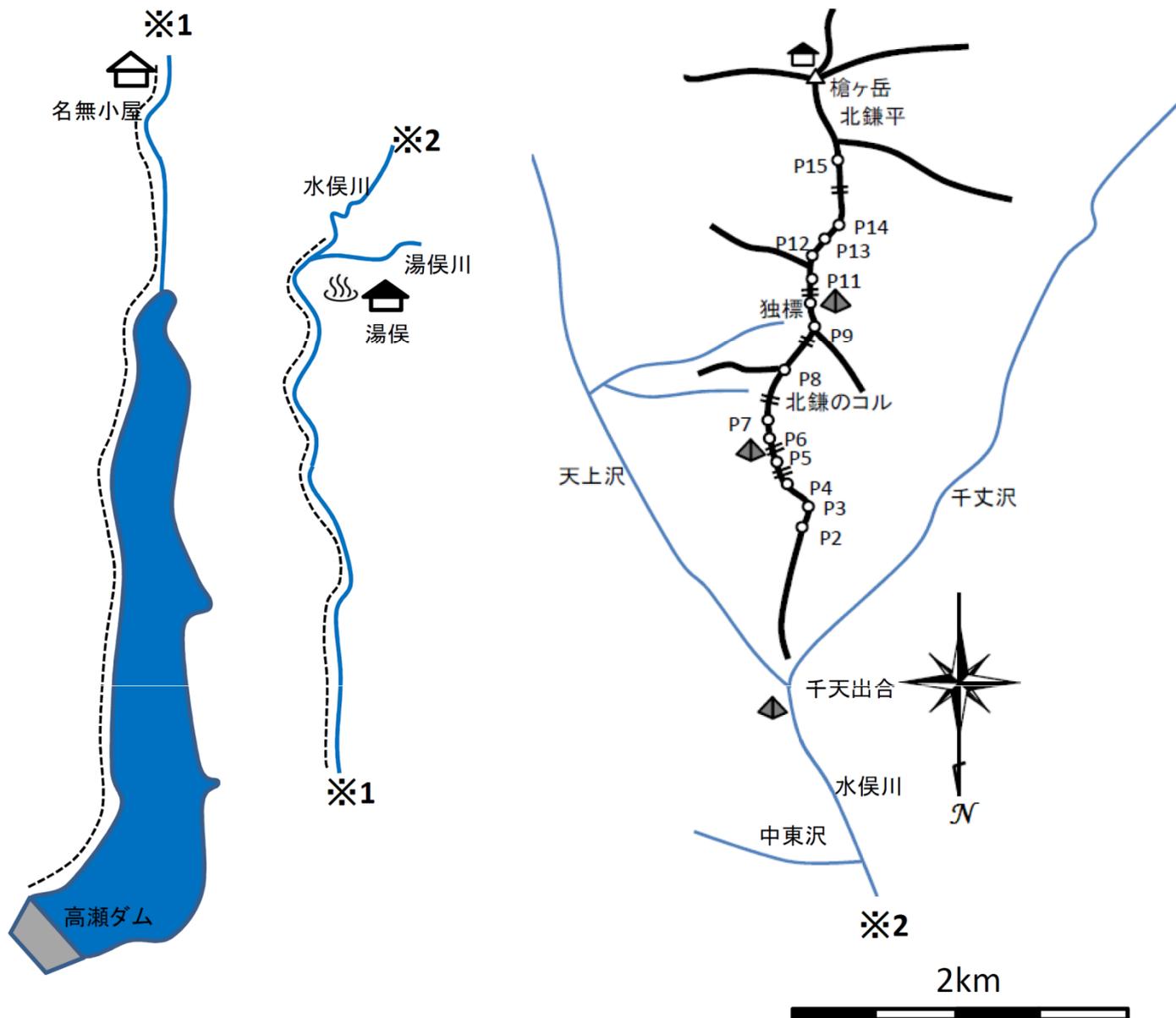
坂地 良夫(福島労山)

鈴木 整(このはな山の会)

松本 好平(このはな山の会)(記録)



高瀬ダム～北鎌尾根～槍ヶ岳 概念図



5/2(金)

20:00大阪駅集合～阪神高速/名神高速/中央自動車道/長野自動車道～
01:30信濃大町駅前着

去年の秋から計画していた北鎌尾根。他のパーティーの登山記録を何度も読み返し、イメージトレーニングは出来ている。期待と不安が入り混じる。
GWの渋滞にも巻き込まれず、車は順調に走り、午前1時過ぎには信濃大町駅前に到着。翌日のタクシー予約をしているアルプス第一交通の駐車場に車を預け、事務所の床で仮眠させていただく。

5/3(土)入山1日目 晴れのち雨 気温10℃

04:30起床～05:30タクシー乗車～6:00七倉ゲート6:30～7:00高瀬ダム～
08:20名無小屋～09:30湯又～12:40中東沢出合～15:00千天出合手前

信濃大町よりタクシーに乗車し、七倉ゲート経由で高瀬ダム下車。われわれ含めて4パーティーが北鎌入山。平均年齢では我々が一番上の様である。

いくつものトンネルを抜け高瀬川右岸の綺麗に整地された水平道を歩くこと2時間、湯俣に到着した。その先の湯俣・水俣出合いに架かる吊り橋を過ぎ河原に降り立つ。その名の通り、湯俣川は白濁し硫黄のにおいが漂う。水俣川は澄んだ清流である。

ここからは左岸の高巻道へ。かすかな踏み跡を頼りに進むが、道が悪い。あちらこちらで崩壊したザレ場と化しており、川の流れは、はるか断崖の下。おまけに、ザレ場を越えた先の踏み跡が見つげにくい。何度も藪漕ぎし、懸垂下降で河原に降り立つ。

高巻くこと3度、いよいよ沢靴に履き替えて川岸をへつる。激流の岸を残置ロープにぶら下がりながらそろそろと。ぼろぼろの残置ロープと、ぼろぼろのハーケンに肝が縮む。5, 6回渡渉を繰り返す。水の冷たさに足がしびれる。深いところは太ももまで。流れが速く足をすくわれそうになるが、スクラムを組んで何とか乗り切る。



中東沢の出合あたりから雪渓が目立ち始める。雪渓の上をフェルトの沢靴で歩く。事前に川田さんからアドバイスあった通り、意外と歩けるものである。ただ、フェルトに雪が付き、その雪が堆積し凍り付く。それに気付かず、ゴーロの岩の上を歩くと、案の定こけてしまい、顔面を岩に打ち付ける。前歯1本が折って間抜け顔になってしまった。



腫れた唇に顔をゆがめながら再出発。雪渓の高巻と渡渉を繰り返しているうちに徐々に体温が奪われてくる。小雨だった雨も本降りに。予定ではP2の肩まで進むつもりであったが、千天出合手前で幕営する事とした。沢の水と雨で全身ずぶ濡れになり寒い！明日も渡渉があるのかと思うと、すこし憂鬱な気持ちで夜を迎える。19:00就寝

5/4(日)入山2日目 晴れ 気温2℃

04:00起床～05:30千天出合手前～05:50千天出合～07:00P2取付き
～10:10P2～13:50P4～14:30P5～15:00P5/P6のコル手前



朝から冷え切った沢靴を履く。
スノーブリッジをよけながら雪溪の高巻き。
千天出合からは、天上川沿いに遡上し、P2取付きへ。この渡渉箇所は雪に埋まっていた。
登山靴に履き替えP2への急斜面を木の根をつかみながら這い上がってゆく。P2肩に09:00到着

P2、P3を過ぎ、P4へ向け登るが、これが遠い。いくつもの偽ピークに気分もへこむ。さらに、腐った雪を何度も踏み抜き、歩きにくい事この上なし。
P5の天上側の切り立ったトラバースは先行パーティーのトレースをたどるが、ここも踏み抜きが多くヒヤヒヤである。
P5を超えてコルの手前に、ちょうど良い平地があり、そこを今日のテント場とする。昨日とは打って変わって風も無く、暖かく穏やかな、天国の様なテント生活に心がなごむ。18:00就寝



5/5(月)入山3日目 晴れのち雪 気温0℃

02:00起床～4:30P5/P6のコル～P6～15:00独標

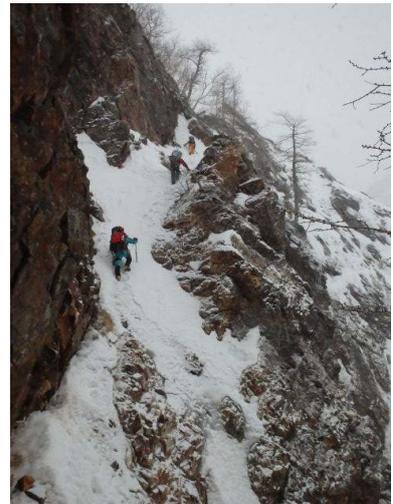
朝は晴れ間がのぞく。ただ、入山前の予報では本日あたりから天候が崩れる。
4:30明るくなると同時に出発。早朝の締まった雪は歩きやすい。
P6の天上側トラバースにかかった時に坂地さんのアイゼンが靴から外れて、アイゼンがカラカラと音を立てて斜面を滑り落ちた。アイゼン無しでは前には進めない。頭をよぎったのは、ここから無事に撤退できるだろうか？またあの辛い渡渉と高巻をするのだろうか。。。

途中で引っかかっているという願いを込め、雪面を懸垂下降しながらアイゼン捜索する。10mほど降りた岩の隙間に、やった！見つけた！無事に登山継続となった。

P7では下降路を間違い、切り立った藪の中を懸垂下降を試みるもロープが下まで届きそうにない。登り返すと、藪に引っかかるロープの回収に手間取る。ようやくと残置支点のある下降点を見つけ懸垂下降で北鎌のコルに降り立つ。目の前には大きなP8がそびえる。また登るのか～と、萎える心に鞭打ちながらP8に取付く。

何とか気力で登り切ったP8。この頃から、みぞれ混じりの雪が舞い始める。P9の急登を過ぎると、目の前には大きな独標がそびえ立つ。今日中には独標を越えておきたい。早立ちしたにも関わらず、アクシデント続発でタイムロスが大きい。

みぞれと共に風も強まってきた。川田さんがトップでルート開拓してゆく。後続は夢中でそのトレースを追いかけてゆく。ようやくと独標の頂上に到着するも、もはや、全身ずぶ濡れ。今日は、この山頂の猫の額ほどの場所でビバークとする。斜面を切り崩しテン場を作るが風が強く、瞬間に体が冷えてくる。整地もそこそこにテントを張り逃げ込む。



テントの中でストーブを炊いて暖をとるが、冷え切った体はなかなか温まらない。融けた雪でテントの中は水浸し。何もかもが濡れている。テントが風で大きくあおられ、フレームが折れないかと心配である。

濡れた衣服のままシュラフにもぐり込み21:00就寝。明日もこの雪と風では停滞かなと気分が落ち込む。ガスの残りも心もとない。まさに風雪のビバーク気分である。

5/6(火)入山4日目 気温0℃

04:00起床～06:00独標～15:00北鎌平～17:00槍ヶ岳山頂～18:00槍ヶ岳山荘



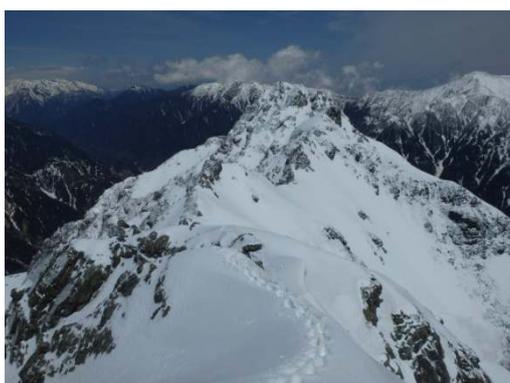
テントをたたき雪の音や止んでいた。外をのぞくと快晴。風は依然として強い。昨日は見えなかった槍ヶ岳が今日は青空にそびえ立っている。絶景！今日は槍ヶ岳山荘までたどり着きたい。気合を入れていざ出発。左右とも切れ落ちたリッジを歩く。天上沢側は雪庇が張出しておりルート取りに気を使う。千丈沢側をトラバース気味に歩くが、雪の表層が板状に剥がれて谷底まで落ちてゆく。昨日の雪の影響か。雪崩れたら。。。と身構えながらのリッジ歩きが続く。

吹き溜まりでは、ひざまで潜るラッセルに体力を奪われる。クラスとした急斜面では、アイゼンの前爪を何度も蹴り込んでステップを切ってゆく。風は一向におさまらず、ナイフリッジでは何度も耐風姿勢でやり過ごす。

途中、懸垂下降の際、ピナクルにかけたロープが引っ掛かって回収できなくなり、10mを登り返すはめに。ようやく支点に到着し、ロープを岩から外した途端、ロープが雪面を滑り落ちていった。え！？頭の中が真っ白になった。(自分では落下防止用にクローブヒッチしていたつもりだったが。。。)

坂地さんがロープを引っ張って登ってきてくれたおかげで事なきを得たが、手痛い失敗に反省しきりである。

アップダウンを何度も繰り返す、すでにP?いくつかは判らない。しばらく進むと、天上側に急峻に切れ落ちたルンゼに出る。この山行で唯一登りでロープを使ったのが、ここ。表面は完全にクラスト(氷化)、上部は垂直、最後はハング気味になる。川田さんにリード行ってもらおう。何とか全員無事登攀出来たがわずか数mの登攀に、おもわぬ時間をくってしまった。



懸垂、吹き溜まりのラッセル、雪庇と雪崩と強風の狭間でのリッジ歩き、クラスとした急斜面の登攀を何度も繰り返す、ようやくと15:00北鎌平に到着した。あとは目の前の槍本峰を残すのみ。今日はここでテント泊しようかな?なんて甘い気持ちもあったが明日の行程を考えると、ここは越えねばならない。一見、どう登るかルート取りに迷うコースであったが、川田さんリードで切り抜ける。真正面から取付き、顕著なピナクルを超えるとひと登りで頂上だ。

17:00ようやく槍の頂、皆で握手。

あとは小屋までの下り。ここで私が道を間違えてしまい、後続の坂地さん、鈴木さんと3人、完全に凍ったルンゼを約5m、後ろ向きで恐る恐る降りる羽目に。

18:00小屋着。今日は温かいご飯と、乾いた布団で快適生活を送れる。うれし～！みんなの無事に乾杯して20:00時就寝



5/7(水)入山5日目 8°C

05:00起床～07:00槍ヶ岳山荘～09:40槍沢ヒュッテ～11:20横尾～15:15
上高地～17:30信濃大町～23:30大阪

本日も快晴。稜線は風が強い。
ゆっくり小屋で朝食をとり07:00にスタート。槍を前に記念撮影。
槍沢を尻セードで下る。(他のメンバーは歩き)あつという間に殺生ヒュッテまで降りてしまった。みんなが降りてくるまでゆっくり休憩。
槍沢ロッジで大休止、ここから横尾までが長かった。ようやく上高地に到着したのは14:00
松本駅までタクシーで、そこから電車乗継ぐ予定だったが、タクシー運転手が信濃大町まで2万円で行ってくれるとの事でノンストップとなった。
信濃大町駅前まで車をピックアップし一路大阪に。長い長い充実した内容盛りだくさんの山行でした。



反省点

- ・予備日の不足。残雪期でもエスケープルートを選択肢がない場合は2日以上必要。
- ・ドライ加工無しのロープを持って行ったため、濡れて、凍って、冷凍うどんのようになってしまい使い物にならなかった。
- ・ピナクル状の岩で懸垂下降をする場合、スムーズなロープ回収を期するため捨て縄を積極活用した方がよい
- ・ロープ回収の際、自分ではクローブヒッチでロープ流れ留めしたつもりであったが、結果流れてしまった。懸垂下降の時と同じように、指さし確認必要
- ・ワンタッチアイゼンが外れて谷に流れてしまった。流れ留のひも,ゴム等を付けた方がよい。
- ・みぞれの場合、雨具の上にオーバー手袋をはめると隙間から水が浸入し、インナー手袋のすべてが濡れてしまい、結果、軽度の凍傷になる。歩行がメインの時は、オーバー手袋の上に雨具の袖をかぶせたほうが濡れにくい。
- ・風雪が強まり体が濡れている場合、体が冷え切る前に行動中止し、早急にビバークすることが必要。体が温かい状態でも、濡れた体ではテント設営中に急速に冷えてしまった。凍傷、低体温症の危険
すでに冷えた体でテント設営を行おうとすると低体温症の急激な進行が予想される。

記 このはな山の会 松本好平